

Q

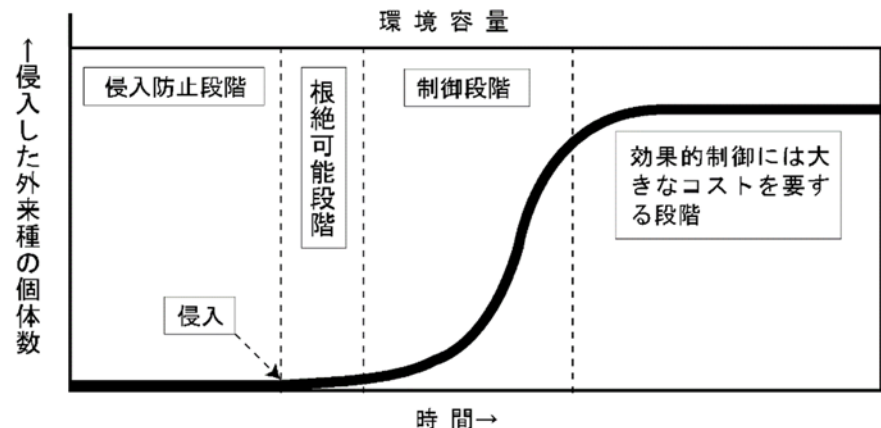
**外来植物の除去において、どのように目標設定をすべきか教えてください**  
 その地域の本来の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かす種を侵略的外来種という。限られたコストや時間の中で効率的・効果的に侵略的外来植物を除去していくため、どのように目標設定をすべきだろうか。

A

**すでに定着し分布が広がっている外来植物に対しては、河川全域にわたって完全に除去することは困難であるため、問題の大きい種や場所に対して「根絶」または「抑制」の2通りの対応について優先順位を付けて設定する。**

## Answerの概要と基本的考え方

- 河川の生態系に悪影響を及ぼすおそれのあるすべての外来植物を完全に除去することは現実的には困難であるため、外来植物の侵入を予防することが最も効率が良い対応である。侵入した外来植物に対しては、初期段階において速やかに除去対策を講じることができれば根絶できる可能性が高まる。
- すでに侵入・定着し分布域が広がっている外来植物に対しては、対策コストや労力が限られているため、甚大な影響・被害を引き起こすおそれのある種や場所を選定し、優先順位を付けて対策を進めていくことが重要である。
- その際の目標として、外来植物の個体群が回復できなくなるまで取り除く「根絶」、外来植物による悪影響が長期的に容認可能な程度までにとどめる「抑制」の2通りが考えられる。



外来植物の侵入段階と対策の有効性



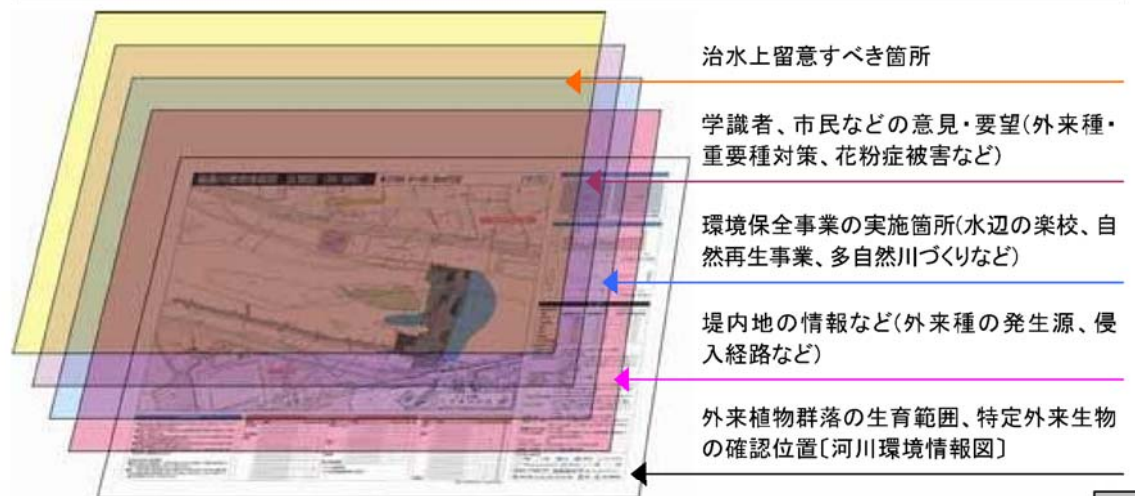
外来植物の除去において、どのように目標設定をすべきか教えてください

## Answerの詳細

### 1) 影響・被害（またはそのおそれ）の把握

河川水辺の国勢調査、環境情報図、学識者や市民の意見・要望などの既存資料から、外来植物による影響や被害（またはそのおそれ）の生じている場所・内容を整理する。その際、抽出する外来植物については、対策を効果的・効率的に進めるためにも、顕在化している問題だけでなく、将来的に発生が危惧されるもの（影響・被害のおそれ）も含めることに留意する。また、影響・被害の内容については、「在来種や在来生態系への影響」のみならず「治水・利水への影響」、「人間活動への影響」の3つの観点から整理する。

1. 現状の把握で抽出した外来植物について、環境情報図や平面図をもとにして、既往の情報を重ね合わせたマップを作成する。



2. 上記のマップにまとめた情報をもとに、外来植物による影響・被害の内容を整理する(外来植物による影響・被害の内容を、地点ごとに類型化してリストアップする)。

※重要種の生育情報については、所轄の河川管理者に問い合わせのこと。

## 外来植物による影響・被害の把握のための情報整理の例



外来植物の除去において、どのように目標設定をすべきか教えてください

## Answerの詳細

### 2) 対策の緊急性の検討

抽出された問題について、場所ごとに対策の緊急性が高いか低いかを判断する。その際の判断基準については、状況に照らして評価することとなるが、最終的な判断については、対象種の生態的特徴など考慮すべき点が多いため、学識者や専門家の意見を踏まえることが望ましい。

### 3) 対象種・対象箇所を検討

実際に対策を行う具体的な対象種・対象箇所を検討する。影響・被害（またはそのおそれ）が生じている場所、およびその要因と考えられる外来植物について、対策をより効果的・効率的なものにするため、流域への拡散防止や再侵入防止等の観点から検討する。

対策後の意図しない外来生物の繁茂にも十分に留意する。

### 4) 目標の設定

外来植物対策の意義は、本来あるべき生態系や生物多様性の保全・復元を行うことや外来植物によって生じている悪影響を取り除くことにある。このため、目標設定にあたっては、本来の自然環境が損なわれた要因とともに、外来植物が侵入・拡大した原因や、それにより発生している課題を具体的に把握しておくことが望ましい。これらの把握により、具体的な施策を明確にし、実現可能な目標を設定することが出来る。

その際、対象箇所における外来植物の根絶を目標とできれば望ましいが、それが現実的ではない場合には、影響の回避・軽減を目的として基準値を設定した個体数の抑制を目標とすることが考えられる。

対策には長い時間を要することから、長期的な目標だけではなく短期的な達成水準も設定することが重要である。